

団体名：佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

日本語教育事業の概要

事業名	<p>佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業 サガン日本語支援モデル・プロジェクト2015</p>	
地域課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町行政の関与が少なく、日本語教室の必要性や存在が地域で認知されていない。</li> <li>・外国人住民と接する機会がないため、外国人住民や地域日本語教育に対し、行政職員や一般市民の理解が進んでいない。</li> <li>・ボランティアによる日本語教育が実施されているが、週1回程度の実施であり、特に日本語初級者にとって、日本語力が伸びにくい。</li> <li>・日本語教室がない地域が多く存在する。</li> </ul>	
目指すこと	<p>◎日本語が分からなくて社会参画ができない外国籍住民をなくす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町行政や地域住民等に幅広く外国籍住民の存在と日本語教育の必要性を理解してもらう。</li> <li>・外国籍住民に日本語基礎文法を来日直後から教えることで、日本の生活がスムーズにスタートできるようにする。</li> <li>・日本語ボランティア教室の活動が円滑にできるように支援をする。</li> <li>・日本語ボランティア空白地域にボランティア教室を開設する。</li> </ul>	
主な取組	<p><b>取組1： 空白地域解消のための連携に向けた取組（ネットワーク会議）</b> （平成25年度（公財）佐賀県国際交流協会との連携で実施）</p>	
	<p>名称：佐賀県日本語教育連絡会議 目的：市町の行政職員に日本語教室の活動状況を理解してもらい協力体制を築く 対象：市町外国籍住民担当課、大学、日本語教室関係者、日本語教育関係者 内容：各団体の活動状況等情報共有や課題抽出等を行う。 成果：他市町、他教室の実状がわかり、連携を含めて方向性が見えた。</p>	<p>名称：日本語教育シンポジウム 目的：佐賀県内の日本語教育支援活動について広く周知する。 対象：地域住民、日本語教室関係者、行政担当者、教育関係者 内容：米勢治子氏の講演、県内日本語教室の紹介、パネルディスカッション 成果：75名の参加があり日本語教育の認知度はある程度高められた。</p>
	<p><b>取組2： 教室の開設に向けた支援の流れ（平成23～27年度）</b></p> <p>名称：日本語専門家による外国籍住民を対象とした「初級日本語集中講座」 目的：初級レベルの外国籍住民に対し、日本語基礎文法学習を日本語専門家が集中的に行うことにより、学習者の日本語学習をよりスムーズにスタートさせ、且つ日本語学習の意欲を継続させる。 対象：来日直後の外国籍住民、及び長年住んでいても、日本語専門家による初期指導を受けていない外国籍住民 内容：「1日6時間×6日（+発表会2時間）計38時間」を1講座とし、日本語基礎文法習得のための講座を県内3～4か所で実施。最終日は当該地域の日本語教室のボランティアを招き発表会を行い、継続学習、継続交流のための橋渡しを行う。 成果：県庁所在地の佐賀市では佐賀市国際交流協会との連携で「初級日本語集中講座」を定期的に実施することができているが、その他の市町での開講は非常に難しい。</p>	

そのような現状の中で、県内の数か所で開講できて、それまで日本語教育に出会うことができなかつた外国籍住民に学びの機会を提供できたことは大きな成果といえる。佐賀県は外国籍住民の散在地域で講座ごとの参加者は多いとは言えないが、参加した外国籍住民は、地域の日本語教室での活動を経て、確実に社会参加を果たしている。「初級日本語集中講座」修了生の多くは地域の日本語教室で継続的に日本語学習や交流を続けるので、“カスタネット”は日本語教室のボランティアとの繋がりを大切にしている。ブラッシュアップ講座等の開講だけでなく、ボランティアからの相談に応じたり、教室を訪問したり、関係を継続させている。27年度は「初級日本語集中講座」の前後にフォローアップ講座を開講し、集中講座後の継続学習についての支援も試みている。

### 取組3: 教室開設後のフォローアップ (★平成27年度委託事業)

名称: 日本語教室活性化フォローアップ講座

(地域の日本語教室の活動を活性化するためのフォローアップ講座)

目的: 日本語教室の参加者(スタッフも学習者も)が少ない地域で、教室活動を活性化させるための手立てをスタッフと共に考えながらスキルアップを図る。

対象: 鹿島市・嬉野市及び近隣地域の日本語教室で活動中のボランティア・スタッフ及び周辺地域の一般市民

内容: 平成24年度から25年度にかけて文化庁委託事業のおかげで、佐賀県内の日本語教室の空白地域5市に日本語教室を開設することができた。“カスタネット”のボランティア養成講座で外国籍住民との交流の仕方を学んだスタッフが中心になって教室活動を続けているが、外国籍住民の散在地域ではなかなかスタッフも学習者も増えない現状がある。参加者が増えなければ、教室の活性化も望めない。そこで、スタッフと共に教室の活性化の手立てを考えるフォローアップ講座を今年度は鹿島市で開講する。鹿島市で行う「初級集中講座」がうまく活かされるように、集中講座の前後に講座を設定する。また隣接する空白地域の嬉野市で日本語ボランティア初心者対象の入門編を開講する。

成果: 鹿島市・嬉野市・武雄市の後援を受けて実施したので、各市担当者の理解を得られた。継続的に教室活動をする参加者を養成できた。既存の日本語教室スタッフにとっても活動をするうえで多くの学びが得られた。

名称: 日本語文法ブラッシュアップ講座

(「初級日本語集中講座」を理解するための文法ブラッシュアップ講座)

目的: 「初級日本語集中講座」を修了した学習者が継続して地域の日本語教室で学んでいる中で、教室のスタッフから内容を理解したいという声が上がっていた。「ボランティア教室活動ブック」活用のためにも、文法に特化した講座を開講する。

対象: 佐賀県内で活動中のボランティア・スタッフ

内容: “カスタネット”は「初級日本語集中講座」を開発してミニ言語保障の意味合いも含めて活動を続けている。平成26年度には集中講座受講後の学習者への対応を想定して、「ボランティア教室活動ブック」を作成した。現在日本語教室で活動しているボランティア・スタッフの皆さんに有効に活用していただくためにも、「初級日本語集中講座」での学習者の学びを理解していただく必要があると考えた。そこで、既に活動しているボランティア・スタッフ対象に、初級文法に特化したブラッシュアップ講座を開講した。

成果:「初級日本語集中講座」は受講者である外国籍住民の負担を考慮して非公開にしている。日本語教室で活動中のボランティアからは見学希望が多かったため、今回「初級日本語集中講座」の内容を説明でき、いろいろな事を理解していただけた。今後、「初級日本語集中講座」修了生を受け入れた際、参考になると思われる。また、当団体作成の「日本語ボランティア教室活動ブック」について内容と活用方法についても説明することができた。

**取組 4 : 教材など学習支援ツールの整備 (平成 24・26・27 年度委託事業)**

名称:「日本語ボランティア教室で使えるカードセット」

目的:「初級日本語集中講座」や「日本語ボランティア教室」で使用するための絵カード・文字カードを作成する。ボランティア養成講座の受講生や日本語ボランティアが簡易に使えるカードセットを目指す。

対象:地域の日本語教育に関わっている専門家、日本語ボランティア、外国籍住民とボランティア養成講座受講者

内容:「初級日本語集中講座」で使用している当団体作成のテキスト「日本語インテンシブ」の内容に即した絵カード(あいさつ・ものの名前・同志・形容詞)と文字カード(動詞)、カードの使い方の手引書

成果:日本語ボランティア教室や集中講座で幅広く活用されている。

名称:「日本語ボランティア教室活動ブック」

目的:「初級日本語集中講座」受講生は、受講後は地域のボランティア教室で日本語学習を続けることになる。その際、集中講座の学習成果を定着させるような教材が不可欠である。そこで、集中講座の内容を踏まえて、地域日本語教室で使用できる教材を作成した。

対象:外国籍住民

内容:日本語ボランティア教室での活動、交流を円滑に進めるために作成し、初級者から上級者まで使えるように工夫した。全 10 課はトピック別に分けられ、どこからでも始められるようになっている。イラストが豊富にあるので、絵を見ながら自由に対話活動ができ、その中に「聞く・話す・読む・書く」の四技能も盛り込んだ。

成果:日常生活に即した実践的な内容で、学習者から高評価を得ている。日本語教室のボランティアの支持も得ている。26 年度の課題として残った活用の仕方に関する説明書の作成と説明会の実施は 27 年度の計画に織り込んである。

地域の  
変化

平成 24 年武雄日本語教室開設、平成 25 年多久日本語教室・伊万里日本語教室・鹿島日本語教室・神埼日本語教室開設により、佐賀県内の日本語教室空白地域に新たに日本語教室が開設された。

周知活動によって、行政や地域住民の日本語支援の必要性の認識が高まった。さらに日本語支援ボランティアとして活動する地域住民が増加した。

<p>今年の 取組</p>	<p>平成 27 年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業、地域日本語教育実践プログラム A &lt;佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業 サガン日本語支援モデル・プロジェクト 2015&gt;</p> <p>①日本語教育の実施： 日本語専門家による日本語レベルがゼロ初級の外国籍住民を対象とした「初級日本語集中講座」</p> <p>②日本語教育を行う人材の養成・研修の実施： ・日本語教室活性化するためのフォローアップ講座 ・日本語文法ブラッシュアップ講座</p> <p>③日本語教育のための学習教材の作成： 「ボランティア教室活動ブック」の改訂及び増補と手引書作成</p>
<p>皆さんへ 一言</p>	<p>佐賀県日本語学習支援“カスタネット”の活動は、文化庁委託事業なくしては続けてこれられないものでした。(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県内の市町行政機関、そして多くの日本語ボランティアの皆さんと連携することで、いろいろな活動を展開することができました。本日は、“カスタネット”のこれまでの歩みを紹介させていただきます。</p> <p>私たちの願いは、縁あって佐賀県で生活している外国籍住民の方々が快適に暮らせること、そのためには日本語が使えるようになって一市民として社会参加ができるようになることです。その実現のために、「初級日本語集中講座」⇒「地域の日本語教室」⇒「言語的自立」⇒「社会参加」という流れを県内各地に作り、それを支援する講座等も含めた「サガン日本語支援モデル」を考えてきました。</p> <p>微力な私たちですが、今後もこの「サガン日本語支援モデル」が確立できるように努力を続けていく所存です。</p>